

小田原市

「緑の分権改革」調査事業の 取り組みについて



小田原の恵まれた自然
環境を守り大きく育てて
いくために



小田原市環境部環境政策課
課長補佐 藤澤隆則



川：酒匂川とクリーンさかわ
(清掃活動)



川: 久野川と清掃活動

全体の構成

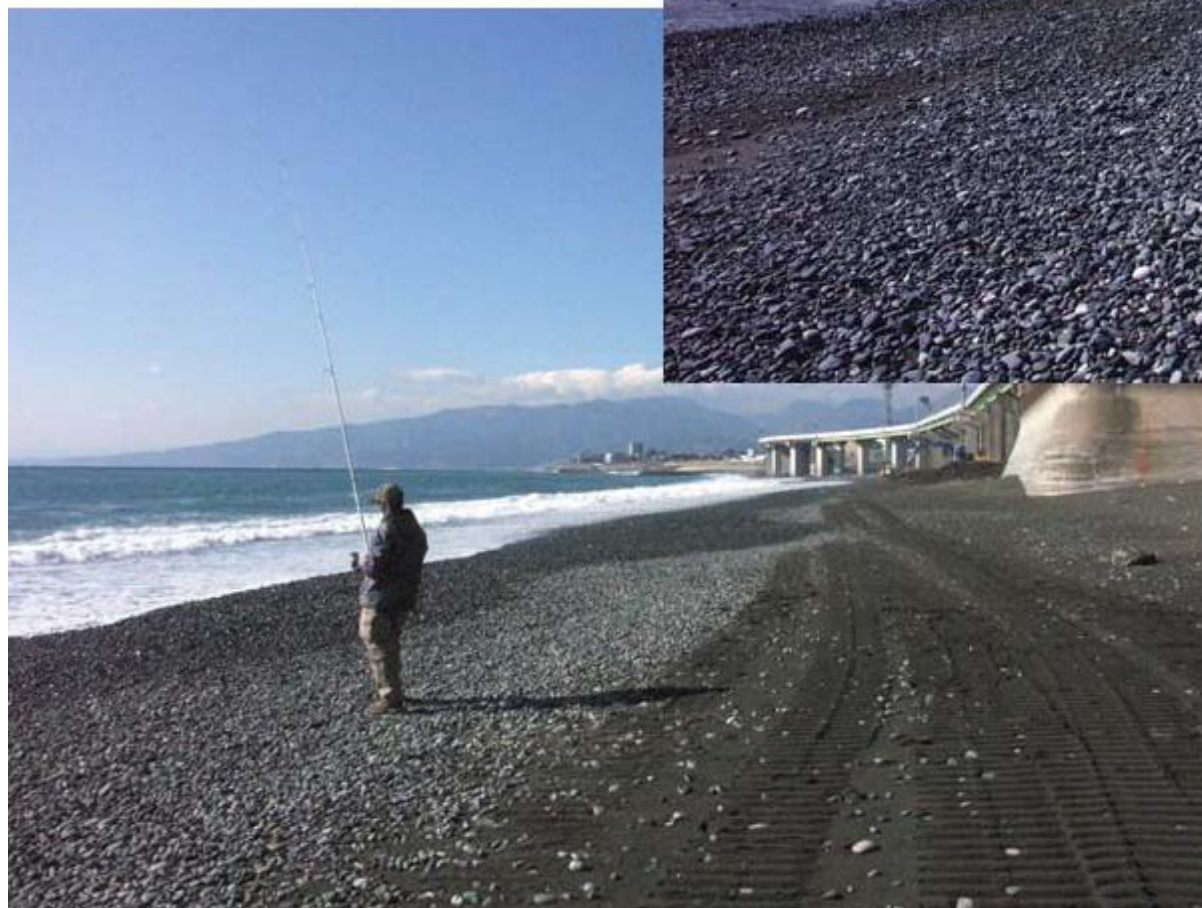
- I 小田原市の紹介及びねらい
- II これまでの地域活性化への取り組み内容
- III 調査事業の進捗状況
- IV 調査事業における課題の抽出
- V IVの課題への対応策の検討、提言
- VI まとめ

I 小田原市の紹介及びねらい

1 小田原市の位置

- 本市は、神奈川県西部に位置し、市庁舎は北緯35度15分41秒、東経139度9分21秒にあります。
- 市域は、東西17.5km、南北16.9kmで、南西部は真鶴町、湯河原町、箱根町と、北部は南足柄市、開成町、大井町と、東部は中井町、二宮町とそれぞれ境を接しています。
- 面積は114.06km²で、神奈川県の面積の4.7%を占め、県内の市としては、横浜市、相模原市、川崎市に次いで4番目の広さを有しています。

海：西湘海岸





市街地：街中と清掃活動

2 小田原市の地形・気候

- 市の南西部が箱根連山につながる山地であり、東部は大磯丘陵につながる丘陵地帯になっています。市の中央には酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成しており、南部は相模湾に面しています。
- この風光明媚な自然環境と夏は涼しく冬は暖かいという気候により、明治から昭和初期にかけて、保養地として多くの著名人に愛されてきました。
- 背後に山地を控え、南は相模湾に臨んでいるので、1年を通して気候は温暖です。
- 夏は東京より涼しくて冬は東京より暖かく、雪が降ることはめったにありません。黒潮の影響を受けたこの温暖な気候と適度な雨量が、生活の快適さだけでなく、梅やみかんをはじめとした多くの農産物の成長を支えています。

3 小田原市の特性

- 首都圏の西端、都市的な生活環境
 - 山、森、川、海、田園風景、里地里山・・・自然環境
 - 歴史的な街道・街並み・・・文化・歴史・景観
- ⇒コンパクトなエリアに、様々な環境要素がオールインワンに備わった都市、全国的にも稀有な地域
- 人口減少、少子高齢化、長引く景気の低迷、産業の空洞化
 - 環境資源の劣化と埋もれた地域資源の活用



里地里山：久野の里山と橘の棚田



山：間伐と植林



4 小田原の課題

- **【新しい地域の将来像】**国や地方の財政の悪化など経済情勢や社会構造が変転する中、従来の考え方や方法の延長線上に未来を描くことが難しくなっている。
- **【分野別課題】**小田原市は、福祉や医療体制への不安、子育てを取り巻く諸問題、水源となる山林の荒廃、地域経済の低迷、中心市街地のにぎわいの喪失、厳しい財政状況のもとでの大型開発案件など全国の各地域に共通する課題や地域固有の問題を抱えており、これまで地域を支え、全国的にも高率な自治会組織率などをもつ小田原市の身近なコミュニティの絆の弱まりと担い手不足や人々のかかわりの希薄化などが危惧されている。
⇒ 「地域の自給力と創富力を高める地域主権型社会」
地域の潜在力を活かし自立度の高い都市を目指す

Ⅱ 地域活性化への取り組み内容

1 新しい小田原(方針づくり)

- 市長のマニフェストと平成23年度以降方針策定
 - ① 新総合計画と地域別計画の策定
 - ② 地域コミュニティの再生
(地域運営協議会・職員地域担当制)
- 新総合計画の策定と市民参画
- 環境行政の方針づくりと市民参画
 - 各種検討委員会等の設置

2 政策の策定の特徴

- 平成20年5月加藤市長市政発足（変化に富む）
- 「新しい小田原」&地域コミュニティの再生
- 環境分野については「サイエンス→ネイチャー」
太陽光、低公害車の普及→生ごみ堆肥化、農林業
⇒持続可能性・自然環境の活用
地球温暖化対策→身近な環境再生
⇒遠い目標より地域（身近な環境）における成果

3 今後の環境行政の方針づくり

- 無尽蔵プロジェクト・環境（エコ）シティ
 - ⇒環境課題洗い出し
 - ⇒プラットフォーム形成への取り組み
- 環境再生プロジェクト検討委員会
 - ⇒生ごみ堆肥化以外の環境再生の調整・仲介
- 生ごみ堆肥化検討委員会
 - ⇒ごみ減量・堆肥化の促進

4 これまでの地域活性化への取り組み

① 環境ボランティア登録制度（相互間の連絡・協力）

団体登録制度はあるが、分野別にバラバラのままとなっており、環境改善活動の連携・拡大は進んでいない。バラバラな支援制度のもと、市民団体も行政内部も連携した取り組みになりにくいものとなっている。

② 環境ボランティア協会（会員相互の親睦）

個々の団体の活動がバラバラのままであり、個々の団体は、その活動で肉体的にも、精神的にも精一杯

環境ボランティア協会の活動形態(1)

事務局
(環境政策課)

- ・協会事業参加
- ・役員会出席
- ・広報紙掲載
- ・書類印刷、
発送支援
- ・ごみの回収等
- ・入会案内協力

役員会

- ・会員の意見集約
- ・広報
- ・事業の企画
- ・運営事務
- ・会計事務

会長	1名
副会長	3名
幹事	若干名 (3名)
会計	1名
監事	1名

総会で選出(12名まで)

活動内容

会員相互のコミュニケーションを図る

- ・会員への連絡
(Eメール・FAX配信、メーリングリストの活用)
- ・交流会の開催
- ・WEBの活用

活動を広く知らせる、拡大する

- ・エコポスの発行
- ・イベントの開催
- ・WEBの活用

会員相互の知識などの向上を図る

- ・学習会、見学会の開催

市との協働を図る

- ・協働
- ・提言

H19 会員129
(団体61 個人68)

↓

H22 会員 81
(団体44 個人37)

- 1 環境美化
- 2 リサイクル等
- 3 河川の浄化
- 4 地球温暖化防止
- 5 ゴミの減量化
- 6 森作り
- 7 環境教育
- 8 野鳥保護
- 9 めだか保護
- 10 ホタル保護
- 11 その他

目的:環境ボランティア活動全般の進展と会員相互の情報交換と親睦を通して、小田原市の環境の向上に資する

環境ボランティア協会の活動形態(2)

役員会

会長 西島(グリーンライフ)
副会長 小泉(萌木の会)
 大野(菊川)
 岡本(森のなかま)
幹事 富田(シジミ)
 高松(個人)
 岩見(倫理の会)
会計 飯田(環境を考える)
監事 栗林(温暖化アクション)

運営機能による分科

会員相互のコミュニケーションを図る【小泉、大野、岡本、栗林】

- ・会員への連絡 (Eメール・FAX配信、メーリングリストの活用)
- ・交流会の開催
- ・WEBの活用

活動を広く知らせる、拡大する【小泉、大野】

- ・エコポスの発行
- ・イベントの開催
- ・WEBの活用

会員相互の知識などの向上を図る【西島、栗林、飯田】

- ・学習会、見学会の開催

市との協働を図る【西島、岩見】

活動内容による分科

地球温暖化防止

温暖化防止アクショングループ
 Rs
 萌木の会
 西湘EMわいわいネット

生態系保護

森のなかま
 神奈川育林隊
 環境を考える市民の会
 森の恵み
 菊川をきれいにする会

環境美化

緑樹会、四季の風
5区グリーンライフヒサール、
いちご会、エコビージミ
 家庭倫理の会西湘
橘環境ボランティアクラブ

3R~5R

リサイクルネットワーク水樹
 ビッグ・ヴィレッジ
 Rs
 萌木の会
 せっけんビレッジ

市との協働

エコライフフェア

省エネライフアドバイザー協力
 環境家計簿普及協力

森林づくり枝打ち体験

五代祭り美化キャンペーン
 酒匂川清掃
 城下町クリーン作戦
 ツーデーマーチ協力

イベントでの5R啓発

小田原の身近な環境の保全・再生

自治会、子ども会、老人会、
地区社協、民児協、
環境美化推進員

新たな地域の人材

生ごみ堆肥化検討委員会

環境再生プロジェクト検討委員会

無尽蔵プロジェクト・環境（エコ）シティ

Ⅲ 調査事業の進捗状況

1 環境再生プロジェクト

経過

環境再生プロジェクトでは、①環境改善を果たし、②地域コミュニティの再生を目標に掲げている。

地域の環境課題の抽出にあたり、平成21年度には検討委員会を立ち上げ、フィールド調査及び検討を行った後、実証(モデル)事業の一般公募を行い、結果35の応募があった。

応募者とのプレゼンテーション等を実施し検討を行った結果、多くの市民・団体がかかわりを持てるような3分野の事業(①身近な河川、②身近な森林・荒地の再生、③地域資源による地域の活性化)を実証(モデル)事業とし、平成22年度の活動として進めている。

(1) 身近な河川

① 「下菊川花の散歩道計画」



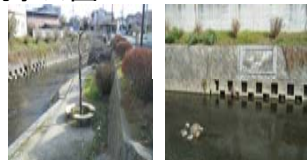
花の道1



あじさいとスイセンの道



親水公園



花の道2



下菊川沿いの植栽、花植えを市民主体で実施し、大道公園での落ち葉の堆肥場を整備する。自治会・老人会などの地縁型とテーマ型のコミュニティの連携を図り、花の散歩道づくりを通じて、調整・仲介、連携機能を検証する。



間伐プランター



花植え会(2010. 10.19)

(2) 身近な森林・荒地

② 「手入れ不足の山林」

- ・ 相続により山林の手入れが進まない問題や国産木材価格の低迷、ライフスタイルの変化により里地・里山の価値が衰退した山林を再生し、林業の振興への寄与を目指す。
下草刈り～除伐～選木～間伐イベント～植生調査～再生イメージのマニュアル化づくりを目標とした実践的な活動・講座等を通じて、新たな担い手の発掘・育成、間伐技術支援、材の利用法等について考える。
- ・ 荻窪地区にある山林と里地里山の間にある私有林の手入れを通じたフィールドにおける環境改善活動の実践的な担い手養成



(2) 身近な森林・荒地

③ 「荒地の再生・活用」

- 高齢化や少世帯数により、和留沢地域には荒地が目立つが、市民の手で再生・活用する。
- 地域コミュニティと意欲ある市民団体(NPOなど)との連携により、地域課題に取り組む。
- 様々な土地利用策をもとに、地域に合った計画づくりのため、地域の総意を形成する調整・仲介、ネットワーク化を検証する。



「緑の分権改革」調査事業



小田原市

(3) 地域資源(地域活性化)

④ 白糸川の滝の散策路

- 片浦の観光資源の活用とホテルをはじめとした白糸川の自然環境の再生を図り、白糸川を軸とした根府川地区の観光誘致に取り組む。
- 白糸川沿いにある7つの滝を巡る散策路を整備し、既存の観光施設やイベント、地域資源との連携を図る。



「緑の分権改革」調査事業



小田原市

⑤ 生ごみ堆肥化

経過

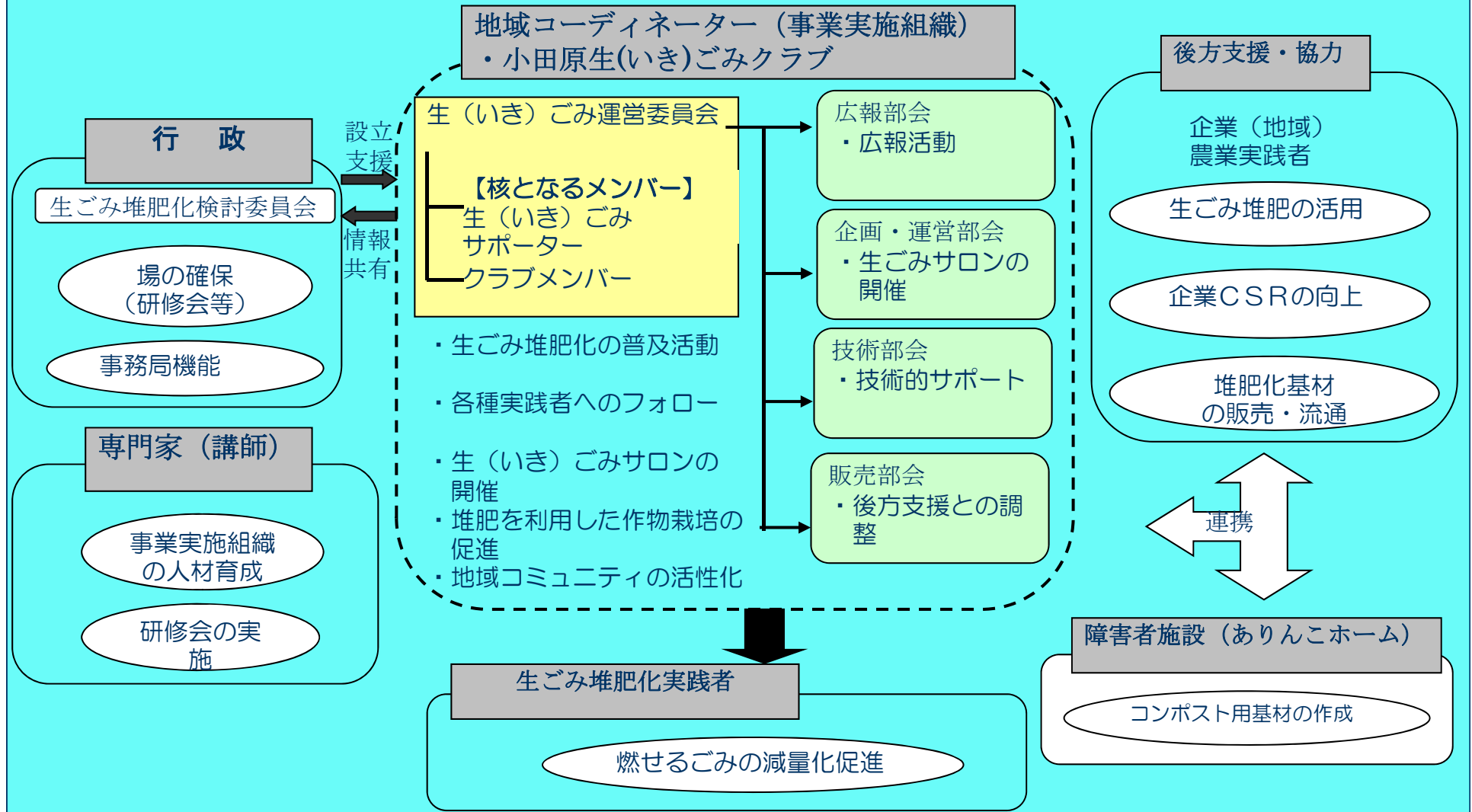
生ごみ堆肥化では、意欲ある市民の発掘・育成を通じた地域の身近な環境改善の取り組みとして、環境再生プロジェクトのうち、生ごみ堆肥化部分のみを別の検討委員会を立ち上げて検討を進めている。

平成21年度に検討委員会を立ち上げ、先進事例調査、地域内循環の仕組みづくりを検討し、家庭での取り組み、地域での取り組みをまとめた。

平成22年度は、①ダンボールコンポスト等による家庭での取り組み、②モデルとなる小学校区における地域における取り組み、実証実験として活動として進めている。

意欲ある市民が市との対等なパートナーシップを形成し、緩やかなネットワーク化・プラットフォームの形成、組織化を促進する。

「(テーマ)ごみコミュニティ」組織化(案)



⑥ 緩やかな連携

● プラットフォーム形成へのプロセス

- ① 個々がバラバラに課題へ取り組んでいる
(小田原の環境課題の全体像を認識する)
- ② 連携・協調することで個々の課題への取り組み
(実証事業(モデル)事業の実践を通じて)
- ③ つなぐプラットフォームによる情報の共有
(仕組みの骨格づくりのための課題の検証)
- ④ 地域ブランドしての情報発信

● 自然環境情報調査 「環境マップづくり」

目標

- 環境活動団体、活動状況の棚卸しを行い、団体と活動のマップの作成を目標とする。
⇒環境改善活動団体等とその活動内容
⇒市内小学校等で実施している下菊川調査を環境学習の一環として、「子ども調査マップ」(学年又はクラス単位の活動マップ)を作成

● ネットワーク形成・担い手の養成 (仮称)エコシティ・フォーラム(フェア)

目的:

各種テーマごとの担い手養成講座の総決算として、基調講演を通じて、小田原市の環境政策や環境分野に取り組む団体・NPOの活動を広く伝えるとともに、市民の環境改善や地域活性化に対する動機付けを参加型の分科会を行い、ネットワーク形成(プラットフォーム)の意義を伝え、小田原地域が目指す環境(エコ)シティのビジョンを共有する。

- 1 日時 2011年3月13日(日)10:00~15:00
- 2 場所 小田原市川東タウンセンターマロニエ)
- 2 テーマ 「うるおう循環都市 -すべてがつながりあうまち-
環境政策の目指す姿と現在の取り組みを紹介し、協働を広く市民に呼びかける。
- 3 内容
 - (1)基調講演 (40分~50分×2講演)
 - ア 他地域での先進事例の発表
 - イ 小田原市の環境改善取り組みの事例発表:行政、検討委員会もしくは活動団体(無尽蔵プロジェクト「環境シティ」、生ごみ堆肥化、環境再生プロジェクト)
 - (2)分科会・ワークショップ(60分~80分×6テーマ ※ 2~3カ所にて同時並行

IV 調査事業における課題の抽出

- **自治会との連携不足⇒地縁型とテーマ型の相互のコミュニティ機能**
 - …自治会では、高齢者による地域活動の担い手という問題があり、市民団体は、課題を解決したいという意欲があるにも関わらず、両者が協働で作業する機運が高まらない。
- **活動の担い手不足⇒環境活動情報と環境課題の定期的情報発信**
 - …活動周知の場、広報活動が一般市民にまで浸透せず、特定の団体・参加者の活動となっており、広がりが無い。また、団体運営組織の人材不足のため、活動が限定的である(自らの団体の活動に肉体的にも精神的にもめいっぱい)。
- **地域との合意形成の未確立⇒環境の活動分野別へのコーディネート**
 - …活動者・団体が活動をはじめようとするとき、活動に対する理解が得られにくい。
- **活動間の連携不足⇒活動分野別連絡調整からプラットフォームへ**
 - …団体間の交流が希薄なため、限定的で小規模な活動を個々に実施することとなり、技術向上や組織的なマネジメント機能が不足している。
- **環境資源の未活用⇒情報発信と活動活性化によるマッチメイク**
 - …地域住民が環境資源としての活用を認識する機会が少なく、地域資源としての利用価値を見出せない。

V IVの課題への対応策の検討、提言

○ 活動者・団体のネットワーク化

～ 環境再生から地域再生へ ～

組織の中心となるまとめ役(リーダー)と、調整、仲介する市民団体の存在の必要性

住民・企業・行政のパートナーシップを促進し、地域ぐるみでの身近な環境資源を保全・再生するコーディネート組織であるプラットフォームの形成を目指す。

- ・ 活動の“種火を心に持つ”人に共通で身近な環境改善事業の実施
- ・ 活動実践者の役割分担を明確に提示し、情報共有の場を設ける
- ・ 活動者対象に専門家による技術支援、組織マネジメント講座開催

VI まとめ

- **現状・提案の背景**

自然環境や地域資源の活用など地域の身近な環境を守り育てる取り組みが必要になっている。

- **実現の目指していく地域のイメージ**

地域ぐるみで環境再生活動をコーディネートする組織を形成し、その実践を促す。

- **提案概要**

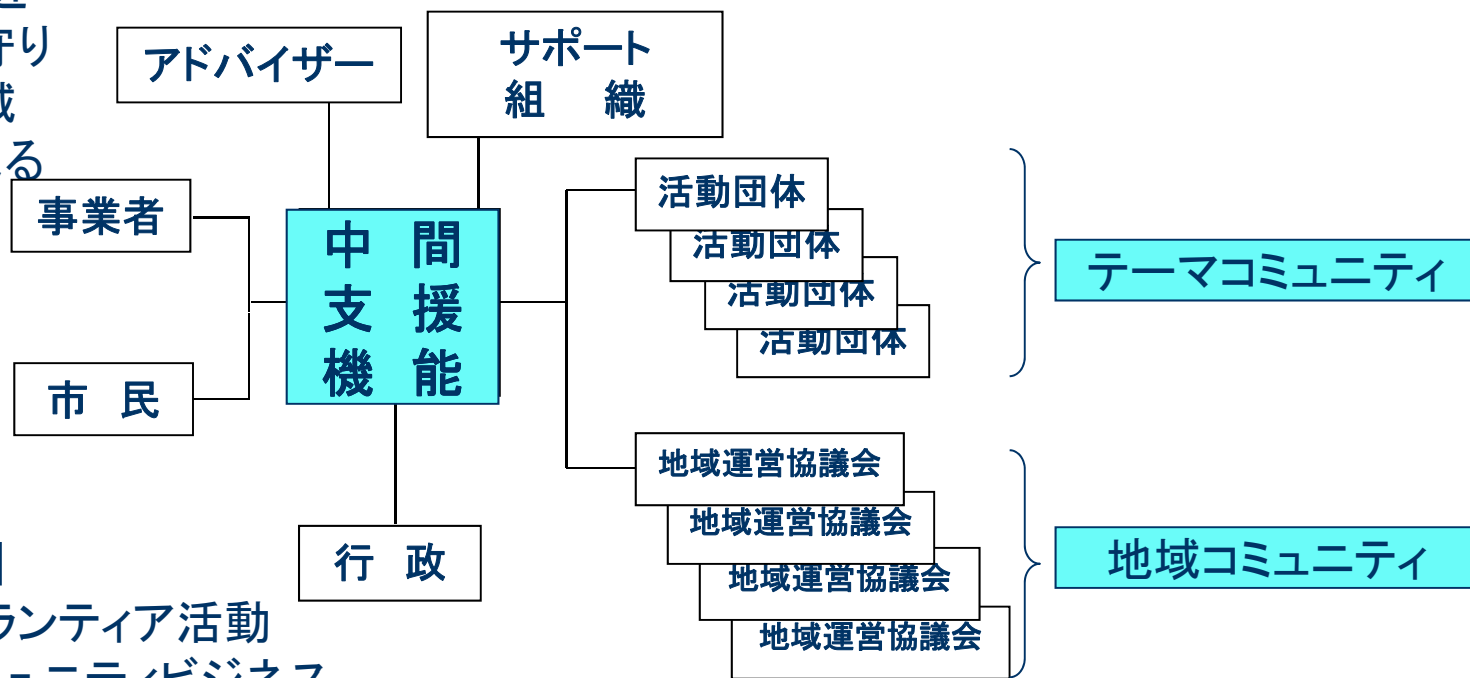
地域の豊かな環境を守り育て、持続可能な新しい環境改善の地域文化を創造することを目指すため、地域の各主体とのパートナーシップを促進し、調整・仲介機能をもつ中間支援組織を核とした地域再生の取り組みを目指すためのモデルを模索する。

終わり (地域の将来イメージ)

【アプローチ】

地域の身近な環境を守り育てる地域ぐるみによる取り組み

「住民・企業・行政のパートナーシップによる取り組み」



【プロセス】

- ①環境ボランティア活動
- ②環境コミュニティビジネス
- ③環境再生から地域再生へ